

明けましておめでとうございます
皆様には健やかに新年を迎えられたこと
お慶び申し上げます。
今年も色々とお世話になりますが、
何卒よろしくお願ひ申し上げます。

第5回『金山地区のまちづくりを語る会』

昨年12月10日に開催された第5回『金山地区のまちづくりを語る会』ですが、前回までに参加者の方々から『語る会』をどう進めていくのか?という疑問の声を頂きました。そこで、第5回目の『語る会』では、これまでに出席参加者の方々の意見をまとめ、皆さんと共有するとともに、『語る会』の今後の進め方を明示するために下記のプログラムで実施しました。内容をまとめてお知らせします。

プログラム

- I. ふりかえり
- II. 『語る会』 部会の立ち上げについて
 - i. 「まちづくりの方針」検討部会
 - ii. 「アクティビティ」検討部会
- III. 事務局提案のアクティビティについて
 - i. 金山地区の「冬まつり」
 - ・「あかりまつり」の提案
 - ・「おでん屋台」について報告
 - ii. ショートムービーワークショップ
 - iii. 金山地区のプロモーションムービー
- IV. その他

I. ふりかえり

前回までに参加者の方々からいただいたご意見を事務局で取りまとめました。

まずは、こうして皆さんと『金山のまち』について考え、語り合うことになった背景を次の2点にまとめました。

背景

- ① リニア中央新幹線開業
- ② 拠点施設事業期間満了等

1 つ目は、リニア開業を控え、名駅・栄地区を中心に再開発が進むなか、金山も更に価値や魅力の向上を図っていく必要があると感じている点です。

2 つ目は、市民会館老朽化に伴う建替えやアスナル金山等公有地の再開発等により「金山が生まれ変わるチャンス」と捉えられている点です。

次に、話し合いの中で明らかになった『金山のまち』の現状と課題は、次の4点にまとめました。

現状と課題

- ① 1日43万人超の乗降客を有する広域交通結節点
- ② 文化拠点の集積・歴史軸の拠点
- ③ 都心型居住地としての人気上昇
- ④ 回遊性の不足

1 つ目は、金山駅は名古屋の一大ターミナル拠点であるにも関わらず、まちの魅力や都市機能が不足しているため、金山を目的とする来街者がまだまだ少ないという課題です。また、関心の高かった事項として、総合駅としての防災機能・体制が不十分といった指摘もありました。

2 つ目は、金山には市民会館を始め、音楽プラザや名古屋ボストン美術館等の文化施設の集積があり、名古屋城と熱田神宮を結ぶ歴史軸の拠点であるものの、その特性を活かせていないという課題です。

3 つ目は、都心でありながら居住地が近接して集積していることが金山の特徴として捉えられているということです。古くからの居住地に加えて、近年における大型マンションの供給など、都心型居住地としての人気が高まっている一方、高齢化率も上昇しており、バリアフリーも含めた歩行環境の整備などを始めとした居住環境としての質の向上も必要と

の意見がありました。

4 つ目は、時間消費型施設や都市機能のボリューム不足、また、鉄道や道路といったインフラにより地域が遮断されているという課題です。これらの課題によって金山には回遊性が生まれないと意見がありました。

続いて、『金山に望むまちの姿』について、概ね現状と課題に対応したものとなりますが、次の 5 点にまとめました。

金山に望むまちの姿

- ①副都心・金山
- ②文化・歴史・鉄道
- ③快適な居住環境
- ④回遊型・滞在型
- ⑤安心・安全

1 つ目は「一大ターミナル拠点である可能性を活かしたまちづくりを進めていこう」というものです。金山駅前周辺には名古屋市所有の土地があります。「これらの公有地を活用して、広域からの目的地となるようなランドマークがほしい」といった意見や、「他地区との差別化を図った個性あるまちづくりをすべき」との意見、また、「現状の賑わいを継承しつつ、連鎖的・段階的なまちづくりを展開していく必要がある」との意見がみられました。

2 つ目は、「既存の文化・芸術施設や歴史的な背景等を有効に活用・発信するなど、資産を活かしたまちづくりを進めよう」というものです。市民会館や音楽プラザ、名古屋ボストン美術館といった文化・芸術施設の集積を金山地区の特徴と捉えている参加者の方が多く、「これらが名駅や栄との差別化を図るための重要な要因になる」との意見がありました。

3 つ目は、「快適な居住環境を創出するまちづくりを進めよう」というものです。清潔感や安全性とともに、緑・花など『うるおい』を感じられる居住環境を望む意見や、高齢化に対応したバリアフリー対

策の重要性に関する意見がありました。

4 つ目は、「駅前で完結するのではなく、『回遊型・滞在型のまちづくり』を進めよう」というものです。「公有地等を活用して魅力ある拠点施設を適切に配置し、回遊性を創出することで滞在型のまちづくりを進めるべき」との意見や、「既存のイベントに加えて新たなアクティビティ（イベントや活動など）を積極的に展開していこう」といった意見がみられました。

最後に 5 つ目ですが、これは「総合駅として必要な防災機能を備えるなど、居住者や来街者に安心・安全を提供できるまちづくりを進めよう」というものです。そのためには、「行政と地元の連携の必要性や、広域避難場所として適切なオープンスペースの確保が必要である」といった意見がありました。

以上が、参加者の意見を取りまとめたものです。

事務局としましては、これだけの意見が出てきていますので、これをもとに、今後の『語る会』での活動を進めるにあたってのよりどころとなる『まちづくりの方針』を議論していきたいと考えています。

II. 部会の立ち上げについて

『語る会』では、活動を継続的に実施するために、複数の部会を立ち上げ、活動を具現化していきたいと考えています。各部会で検討された活動内容を『語る会』に提案し、『語る会』で意見交換をすることで、提案をさらに良いものにしたいと考えています（図 1）。

今回は 2 つの部会を立ち上げることになりました。『まちづくりの方針検討部会』は、先述した【I. ふりかえり】のまとめを参考として、金山のまちづくりの方針について皆さんで議論するための素材、つまり『まちづくりの方針』のたたき台を考える部会です。詳細については次回の『語る会』で内容を詰めていくことになりました。

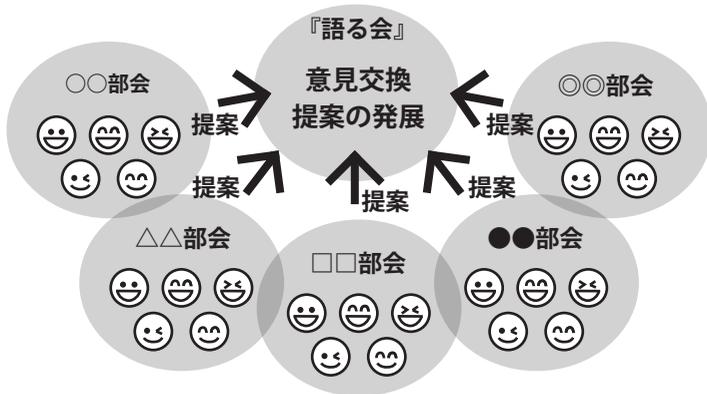


図1 『語る会』と部会の位置づけ

もう一つ、前回までに皆さんから提案のあった5つのアクティビティについても検討していく部会を立ち上げ、実現に向けて進んでいこうと思います。これらのアクティビティを提案してくださった5名の『言い出しっぺさん』には、リーダーとなって部会を引っ張って行っていただくことをお願いしました。まずは言い出しっぺさんに集まっていただき、今後の部会の方向性を検討しました。結果につきましては、こちらも次回の語る会でお知らせしたいと思います。

この2つの部会の他、参加者の関心が高かった『防災』など、提案があればその都度部会を立ち上げていきたいと思っています。皆さんの積極的なご提案をお待ちしています。

最後にですが、『語る会』の進め方をフローチャートにまとめました(図2)。現在、私たちは『語る会』を通してまちづくりに関する意見交換をしたり、後述する金山橋連合商店街のイベントに協力することで、まちづくりを進めるための仲間づくりをして

いる段階です。今後は、金山に望むまちの姿、すなわち『まちづくりの方針』を皆さんと共有した上で、それを実現するためのアクティビティを企画・検討、そして実践していければと考えています。

III. 事務局提案のアクティビティ

参加者に提案を頂くだけでなく、「事務局も主体的に活動を提案し、賑わいづくりをしてみよう」ということで、事務局より3つほど活動を提案いたしました。

1つ目は、『冬まつり』に関連する試みです。2月に金山橋連合商店街振興組合が中心となって行われる『おでん屋台』の支援企画として『あかりまつり』を提案しました。内容としては、子どもたちの参加を募り、和紙で作ったぼんぼりでまちに賑わいをつくらうというものです(図3)。

この企画は、「とにかく一度みんなで何かやってみよう」という思いから提案したのですが、出席者からは、「ぼんぼりの数は多いほど良い」とか子どもの参加を募る方法についての活発な意見が出ました。

2つ目は、『ショートムービーワークショップ』です。第2回の『語る会』に登壇してくださいました中部大学の服部敦先生との共同企画で、建築やまちづくりを学ぶ大学生が金山を舞台にショートムービーを撮るといものです。ワークショップの開催は今年の夏頃を予定しており、金山について学ぶ日(1日)、ロケハン・シナリオづくり(1日)、撮影・編集(3日)の計5日間で実施する予定です。『語る会』では、金

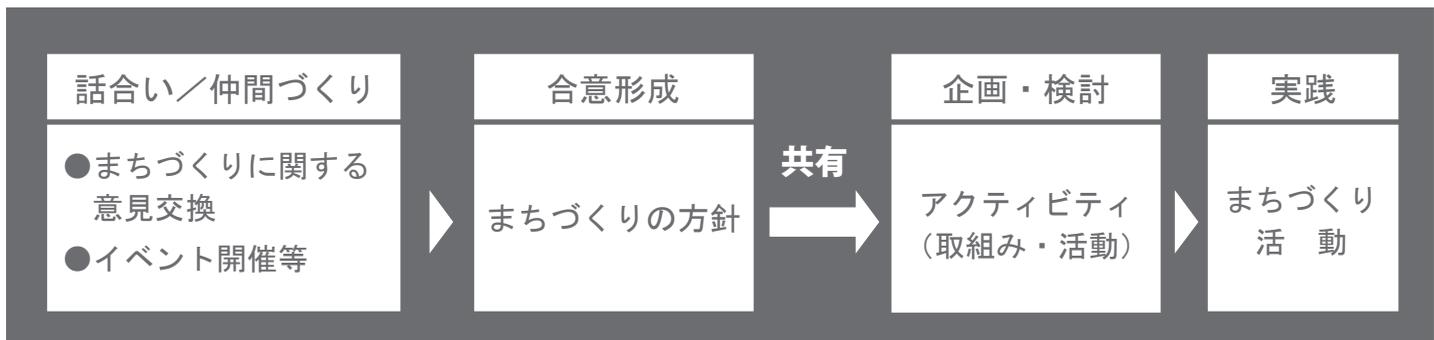


図2 『語る会』の今後の進め方



図3 ぼんぼり(試作品)

山についてのレクチャーや撮影の協力、そして、出来上がった映画を観ていただき、学生と映画は勿論のこと金山のまちについても意見交換していただきたいと思っています。映画の出演をお願いすることもありますので、どうぞご協力ください。

そして3つ目は、『金山地区のプロモーションムービー』の作成です。こちらは2つ目の『ショートムービー』と混同しそうなのですが、作り手は『語る会』のメンバーです。金山のおすすめの場所や良いところ等をスライドショーにまとめるというものです。『食べ物』篇や『神社仏閣』篇、その他様々なものができそうだと意見が出ました。「観光客向けムービーをホテルのフロントで流してもいいのではないか」という活用方法まで考えてのご意見もあり、議論していくとどんどん案が出てきそうな予感がしてきました。

IV. その他

最後に、この『語る会』の組織を今後どのようにしていくか相談させていただきました。『まちづくりを語る会』とはその名のとおり、まちに関して意見交換や情報交換をしながら継続的にまちづくり活動を行っていくための仕組みや体制づくりについて話し合うことを趣旨としています。ただし、今後、実際にまちづくりに取り組み、活動していくためにはどのような組織が相応しいのか。正直、事務局も悩

んでおります。

そこで、次回の『語る会』では組織のあり方について改めて皆さんにご意見を伺いたいと思います。よろしくお願いいたします。

《ふりかえりシート》より

今回の語る会は、机の配置を『スクール型』にしていました。今回は皆さんに『伝える』という内容が多かったのですが、迷いながらもその形をとりました。何人かの方から「スクール型ではない方が良かった」との意見をいただきました。これについては反省しています。確かに皆で意見を交わしにくかったです。今後はざっくばらんに話し合いができる場づくりを心掛けたいと思います。しかし返して言えば、この意見は皆さんがもっと積極的に関わっていかうとてくださっていることが実感できうれしくもなりました。

第1回『言い出しっぺさん会議』

前回の『語る会』でアクティビティを提案してくださった5名の言い出しっぺの方々が集まって、第1回の『言い出しっぺさん会議』をしました。

今後の進め方については、それぞれの部会を立ち上げるのではなく、『イベント部会』のようなものを立ち上げることにしました。そして「発信力があり、他にはないようなイベントを検討していきたいね」ということになりました。そのための勉強会や研究会も随時行っていくことや、その他の部会の立ち上げについても前向きな意見が交わされました。

部会のメンバーにつきましては広く募集していきたいと思っています。皆さんどうぞ参加をお願いいたします。